
協賛機関挨拶

一般財団法人医療経済研究社会保険福祉協会医療経済研究機構 研究主幹

白川 泰之

第21回ヘルスリサーチフォーラムの協賛機関を代表して、一言、ご挨拶を申し上げます。

まず始めに、多年に渡り国民のクオリティ・オブ・ライフの向上に向けて保健、医療、福祉の各分野における学際的な研究の推進に対し、多額の研究助成を継続されてこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団のご貢献に対して、深く敬意を表するものであります。また、本日の第21回ヘルスリサーチフォーラムが非常に充実した内容で開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

皆さまご承知のとおり、わが国におきましては、世界に類を見ない急速な高齢化が進行しております。その中で、一生涯を通じて国民の健康を支える持続可能な社会保障制度の姿をどのように描いていくのかということにつきましては、現在、そしてこれからも基本的な課題と言えます。また、個別の政策に目を転じますと、効果的な予防の実践も含めた健康寿命の延伸、あるいは、地域包括ケアに代表される医療、介護、福祉、そして地域の社会資源の連携によるトータルなケア、サポート体制の構築など、乗り越えていくべき課題は山積していると言えます。こうした課題の解決に向けては、関係者の多面的な取り組みが求められるわけですが、とりわけ実践を視野に入れた調査研究の地道な積み重ねは、政策の方向性を定め、また、実現に移すに当たって不可欠な基盤であると言えます。本日のフォーラムにおきましても、国際比較研究、実態の調査分析、実践モデルの開発など、多岐に渡る研究成果が発表されておりますが、このような調査研究の蓄積が、今後のわが国におけるヘルスケアの充実に向けて大きな原動力になっていくことが期待されます。

そのような意味で、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の活動は今後ますます社会的に重要なものとなり、かつ、多くの期待が寄せられるものと考えております。

今回も協賛をさせていただいております私共医療経済研究機構は、わが国における社会保険制度、医療経済、医療政策に関する研究を促進することを目的とした研究機関です。弊機構では、調査研究事業の他、研究会の開催や機関紙の発行などの普及啓発事業、そして、小規模ではありますが、若手研究者を対象とした研究助成などを行う基盤整備事業、以上の大きく3つの事業に取り組んでおります。

弊機構としては、微力ではございますが、今後ともファイザーヘルスリサーチ振興財団と相互に連携を図り、お互いの特色や強みを生かしながらヘルスケアリサーチの分野

における調査研究を振興し、ともに社会に貢献できればと願っております。

最後になりますが、本日のヘルスリサーチフォーラムが今後のわが国におけるヘルスケア研究をなお一層推進していく契機となり、また、本日参加された皆さま方のますますのご健勝とさらなる研究の発展を心からご祈念申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。